

2020 年度

## 2/2 入学試験

### 国 語

#### 注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 17 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の 8 割以上は書きなさい。ぬき出し問題では、指定された字数で答えなさい。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

1 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 災害のキキが、せまっている。

2 友人とのシンコウを深める。

3 アタタめていたアイデアを発表する。

4 橋の上から、うずシオをながめる。

5 大雨にソナえる。

6 明朝おじゃまします。

7 サイロに牧草を貯蔵する。

8 反対の意見を唱える。

② 共子さんが、辞書で「風」という字を引いてみたところ、次のような意味が書かれていました。

「風」 ① 社会のならわし ② たいど、そぶり ③ 空気の動き ④ うわさ

同じように、小学校で学習する「ある漢字」1〜5を辞書で引いたところ、それぞれ次の①〜④のような意味が書かれていました。何という漢字を引いたかを考え、その漢字一字を書きなさい。

1 「」 ① おわり ② これから先 ③ ……した結果 ④ いちばん下の子

2 「」 ① 勉強する人 ② ことがおこる ③ もとのまま、手をくわえない ④ いのち、からだのはたらき

3 「」 ① 目じるしにつける小さなしるし ② 液体の一滴いっしつ ③ さししめすところ、そのところ ④ 火をともし

4 「」 ① にく ② 立場 ③ 自分 ④ からだ

5 「」 ① お金を数える ② 大都市 ③ 人が集まって作った組織 ④ そのとき

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

(注1) モノトーン

星 はるか

A ① 私が使う言葉なんて、たかが言葉を並び替えた、言葉遊び  
私が書く文章なんて、たかが文字を並び替えた、落書き  
そこに流れるメッセージ

B 言葉なんて見なくてもいい  
根本に息づくメッセージが伝わるなら

どんな汚い言葉も使いましょう  
どんな綺麗な言葉も使いましょう  
どんなきざな言葉も使いましょう  
どんな恥ずかしい言葉も使いましょう

C 言葉なんてなくてもいい  
言葉は ② たった一つの手段  
手と手を繋いで何かが生まれるなら  
泥まみれの手でも繋ぎましょう

D ③ (注2) テレパシーで伝わるのなら  
超能力を使いましょう  
七色の虹を見たいのなら  
限りなく続く地平線の上でも歩けます

1 線①「私が使う言葉なんて、たかが言葉を並び替えた、言葉遊び」とありますが、ここにこめられた作者の気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 思うようにうまく書けないので、くやくしく感じている気持ち  
イ たいしたことはなく、つまらないものだどへりくだる気持ち  
ウ 他の人に分かってもらえるだろうかという不安な気持ち  
エ おもしろい言い方で、みんなを笑わせたいと願っている気持ち  
オ どうせ少ししか伝わらないだろうという投げやりな気持ち

2 B連の——線部「汚い」「綺麗な」「きざな」「恥ずかしい」とありますが、作者がこのような言葉までも「使いましょう」といっているのはなぜですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 言葉を変えて自分のさまざまな気持ちを表現したいから。  
イ 自分が多くの言葉が使えることをみんなに示したいから。  
ウ 自分がいるいろいろな言葉を知っているということを自慢したいから。  
エ どんな言葉を使ってもメッセージは伝わらないとみんなに知ってほしいから。

オ 言葉によってメッセージを伝えるのだという強い意志を表したいから。

3 ②にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア かつて  
イ いまは  
ウ どれも  
エ いつも  
オ ときには

E 今日(すてき)は素敵(すてき)な星降る夜

星を一つ一つ数えましょう

星と星を線で繋いで

④ 自分だけの星座を作りましょう

F そして、流れ星に願いを伝えましょう

そんな気持ち伝わりますか

(『花は光に手を伸ばす』東京図書出版 による)

注1 モノトーン Ⅱ 単色

注2 テレパシー Ⅱ 言葉や身ぶりを使わないで、思いを伝えること

4 — 線③「テレパシーで伝わるのなら／超能力を使いましょう」

とありますが、ここでの作者の考えはどのようなものだと読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 超能力では結局のところメッセージは伝えられないので、言葉で伝えたい。

イ 超能力は誰もがあこがれるようなすばらしいものなので、やってみよう。

ウ 超能力は特定の人にしかできないもので、簡単にできるとは思わない。

エ 超能力はメッセージが確実に伝わる手段なので、これからも大切にした。

オ メッセージを伝える方法も、時代とともに変化していかなくてはいい。

5 — 線④「自分だけの星座」とありますが、「星座」とは何のことだと読み取れますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 私の頭の中にある夜空

イ 私のこれまでの生き方

ウ 私の思いを伝える作品

エ それぞれの人が落ち着く居場所

オ みんなが求めている心の支え

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

一歩足を前にだすたびに汗がふきだしてくる。息がはずみ、あえぎはじめる。心臓の鼓動がばくばくと音をたてはじめる。走っているわけでも、飛んでいるわけでもなく、ただ、歩いているだけなのに、息が上がってしまふ。汗が顔を、体を流れ落ちていく。前を歩くおじさんのザックをにらみつける。あのザックの重さを知らなければ歩きだしたりしなかったのにと、(注)おかど違いの文句を頭の中で並べはじめる。不平不満が頭の中でぐるぐるまわりだした。そして、足元の岩に乗りそこねてよろけた。

(もう、イヤだ！)

そのとき、おじさんが声をあげた。

「よし、一本だ」

登山道のわきに人が五人ほどすわれそうな草の生えた平らな場所があった。おじさんはそこで立ち止まった。

「休憩だ」

① 救われた気分になった。広くはない場所だけれど、見晴らしがよかつた。ザックをおろして休んでいる人たちがいる。地面からつきでている岩に女の人が腰をおろしている。汗をふき、水を飲んでいる人もいる。ぼくはそっとザックをおろした。

「いいペースだ」

おじさんが満足そうな顔で、首からたらししたタオルで汗をふいた。

「ほれっ、飲むか？」

ザックの中から水の入った容器を渡してくれた。ペットボトルではない。軽く三リットルは入るだろうか。水がいっぱい入ったポリタンクだ。

(ザックの中にこんなに重いものを入れて歩いているんだ)

驚きながら、ぼくはタンクを両手でかかえて、ごくごくと飲んだ。冷たくはないけれど、とてもおいしい。ねばりつく口からのどへと一気に通りすぎていく。そして、おなかにおさまると同時に汗となってふきだす。ほてっている体の熱が汗といっしょに出ていった。

② 「おいおい、そんなに飲むと、ばてるぞ」

笑いをふくんだ声だった。

「ほら、見てみる、あれが車で上って来た道路だ」

おじさんの指さす方を見た。休憩場所のむこう側は木々がまばらな急斜面だった。その木々の間からアスファルトの道がくねくねと見えている。かなり下の方だ。

「木に隠れて見えないけど、あのあたりが登り口だ」

おじさんの人さし指が下をむいていた。おじさんの指の先をのぞきこむようにして斜面に体を乗りだした。そして、すぐに歩いてきた登山道をふりかえった。

「こんなに登って来たんだ」

腹立ちまぎれに進めてきた一步一步が、この高度をかせいだのだと思うと不思議な気がする。そして、完全にあきらめた。もう行くしかないのだ。

「食べるか？」

だされたチョコレートを手を取った。熱で変形している板チョコの包装紙を破ってかぶりついた。口に広がる甘さがなんとも言えない。むさぼるように食べる。

「雄太はチョコが好きなのか？」

おじさんがあきれた声をだした。

ぼうつとしかかっていた頭が少ししゃんとした。

あらためて周囲を見まわす。今、ぼくは深い森の中にいた。こんなにたくさんの方々の木々を見たのははじめてのような気がする。休憩場所のわきには白い花をつけた草がゆれている。

細く高い声で鳥が気持ちよさそうに歌っている。

「あれはウグイスの鳴き声っていうのは知ってるだろ？ 山の中で聞くと、鳴き声が澄んでるな。あのケキョケキョと続けて鳴くのは谷渡りという鳴き方だ。縄張りを宣言しているとか、警戒しているといわれてる鳴き方なんだよ」

ぼくは、鳴き声のする方へ顔をむけた。

木の葉をからかうように風が通りすぎていく。汗が一気に引く。とても心地よい風がぼくの前を通りすぎていった。

「さて、行くかな」

おじさんはゆつくりとザックを背負うと、ぼくを見た。

行くしかないとききあきらめたためか、登りになれたせいかわ、ぐんぐんと足が前にでた。

思いだしたようにスマホを取りだし、イヤホンで音楽を聞きだした。そのリズムに乗って、快調に足を運んでいく。おかげで、痛くなりはじめたふくらはぎや、太ももの筋肉の存在を少し忘れた。

でも、しばらくすると本当にきつくなってきた。おじさんよりずっと軽いはずのザックが肩に重く感じられる。イヤホンさえじゃまになった。耳からはずして、ポケットにねじこんだ。

さえずるものなくなった耳に、さざ波のような音が飛びこんできた。吹き渡る風が木々の葉をゆらしている音だ。たえ間なくウグイスがさえずっている。川があるのだろうか、水音が下の方から聞こえてくる。木の葉を通して、夏の日ざしがもれてくる。

③ ここは、ぼくが今まで知らなかった世界だ。

前を歩くおじさんの足取りは確かだ。一步一步、ていねいに足をだしていく。そのうしろをぼくはついていく。もう歩けないと思うと、休憩が入る。おじさんは、ついていくぼくの足音だけで疲れがわかるのだろうかと思議に思う。そして休むと元気になる。そして歩きだす。そのくり返しだ。山では休憩を一本と数えると教えられた。すでに、三本の休憩を取っていた。

重たいザックを背負ったおじさんの歩きはゆっくりだ。ぼくが全力で持ちあげないと上がらなかつた重たいザックを背負っているのだから、町の中のように歩けない。ましてや登りだ。一步一步、確認するように、ゆっくりと足を地面に置いていく。その歩幅が、軽いザックを背負ったぼくと同じになる。<sup>④</sup>歩幅だけじゃなく、気持ちまでいつしよになっていく気さえしてくる。おじさんのザックを見つめながら足を運んだ。

だいぶ登ってきたことを実感する。うっそうと茂っていた木々がまばらになり、あたりが少し明るくなってきた。山をおりる人たちの数も少なくなり、ぼくとおじさん二人の足音がやけに大きく聞こえていた。

大きな岩が登山道をふさぐようにあらわれた。

「え、この岩を乗り越えるの？」

岩はぼくの体ほどの大きさだ。そばにある木の太い根っこが岩を横切るように伸びている。それをちよつと引っぱってみる。

(切れる心配はなさそうだな)

ぼくは両腕を伸ばして、木の根につかまり、大きく足を開いた。

「えい！」

かけ声をかけて登る。すべり落ちないように足の先を岩のくぼみに引っかけける。背中のザックがゆれ、バランスをくずしてあやうく落ちかける。体中の筋肉を使って、ずるずると体を持ちあげる。なんとか乗り越えることができた。どつと汗がふきだし、手や足がじんじんした。両手をふりながらおじさんのうしろについていく。

「え、また？」

さつきより大きな岩が目の前にあらわれた。ぼくは岩の前にたたずんだ。

そして、前を行くおじさんを見て、気がついた。おじさんは岩を登るときも体の動きが変わらない。歩幅をあまり変えることなく岩の横に一步ずつ足を乗せて進んでいく。ぼくみたいに岩にへばりついて大またで一步、また一步。力まかせに登ることはしない。(まねをしてみようっと)

おじさんが足を置いた岩の横の小さなくぼみに足を乗せる。両手を岩につき、確実に一步登る。そしてまた一步。多少ふらつくけれど、ザックにふりまわされることなく岩を乗り越えることができた。おじさんの踏みあとは確かだった。

<sup>⑤</sup>(おじさん、すごい)

それから岩があらわれるたびに、前を歩くおじさんのまねをし続けた。おじさんが足を置いた場所に足を乗せる。一步だしたら、



次の一步をおじさんの置いたところに置くだけ。息が上がり、汗もしたたり落ちるけれど、ずっと楽に岩また岩の険しい登り道を進むことができた。

流れ落ちる汗と、荒い息をくり返すだけの単調な時間があたりの景色といっしょに過ぎていく。登りはじめたとき、頭の中には不平不満が⑥黒いうずを巻いていた。それなのに、ただ、足をだし、息を整え、登ることにだけエネルギーを集中しているうちに、なぜだか頭の中からいろいろなことがぬけ落ちていった。頭のかたすみから離れることになかった数学のテストの点数のこと、いまだになじめないクラスメートのこと、からかわれた言葉のトゲのこと。いつも気になる他人の目。今はかつこよく登ろうと外面をとりつくる余裕など全くない。頭の中でこんがらがっていたそれらのことが、ゆっくりと、そしてするするとはぐれ、消えていく。気がつけば、頭の中はすっからかんだ。

突然、笑いだしそうになった。

理由はわからない。ただ、<sup>⑦</sup>ほおがゆるんでくる。

(ぼく、何してるんだろな。必死に足を前にだし、荒い呼吸をしてさ)

(注2) 脈絡もなく思った。その思いさえ、風に巻きあげられる紙くずみたいに吹き飛ばされていく。頭がからっぽになったせいだろうか、心も軽くなり、澄みきった風が通りすぎていった。

おじさんが登山道のはしっこに急に立ち止まった。少し開けて、ゆるやかな斜面を下をむいて登っていたときのことだ。あやうく、おじさんのザックにぶつかりそうになった。

「えっ?」

おじさんの一メートルほど先に小さい鳥が動いていた。スズメほどの大きさのその鳥は、オレンジ色がかった顔をして、白いおなかを見せている。尾を動かし、一瞬もじつとすることなく、ちょこまかと忙しそうに動いている。ときどき、こちらに真ん丸い目を向ける。

そつと一步をだす。すると、鳥はさつと飛びのいて、その先の登山道の上におりたち、またちよこちよこと動きだす。また、一步をだすと、鳥はちよつとこちらを見て、飛びのく。首がよく動く。尾も小さきぎみに動く。

「コマドリだ」

おじさんが小さな声で教えてくれた。

その名を聞くのははじめてだった。

おじさんがそつと動く。

ぼくもまねをして、足音を忍ばせて歩く。コマドリはそのたびに道の先に飛びのき、ぼくたちを見る。

「道案内をしてくれてるみたいだな」

おじさんが小声で言う。コマドリとの距離はちぢまらない。でも、コマドリはぼくたちの行く先で待っている。そして近づくと、ちよっと飛んで、その先におりたつ。地面をついばみ、こちらを小さな丸い目で見、そして、飛びのく。

「かわいい」

小さな声におじさんがふりかえった。ぼくの顔を見て、おやつという表情をして、すぐ笑顔になった。

「人なつこい鳥だな」

かわいくてしようがないような声で言う。

風がさつと通りすぎた。それが合図だったかのように、コマドリがさつと飛びさった。

あつ、と口から声が出た。

(もつといっしょに歩きたかったのにな)

コマドリをさがして空を見あげた。

⑧「コマドリの名前の由来、知ってるか？」

首をふった。

「ヒンカラカラって、馬のような鳴き方だからだよ。馬こまって駒ともいうだろ。だから、馬みたいな鳴き声の鳥っていう意味で名前がつけられたんだ」

「コマドリ」

「雄太はほかに鳥の名前、何を知ってる？」

「スズメ、カラスとウグイスくらいかな」

「ま、そんなところだな」

おじさんが笑いながら汗をぬぐった。

「知ってる鳥にコマドリが加わったな」

「うん」

目の前にいた鳥がコマドリだと教えられ、ぼくはあっけなく感動していた。名前を知らないたくさん鳥の中から、オレンジ色をしたコマドリの姿だけがリアルに心の中に飛びこんできた感じだ。

コマドリはともきれいで、かわいかった。

ぼくは、コマドリが飛んでいった先に何度も目を走らせた。

(にしぎきょうこ『ぼくたちのP(パラダイス)』小学館による)

注1 おかど違い Ⅱ 見当ちがい

注2 脈絡もなく Ⅱ なんのつながりもなく

1 ——線①「救われた気分になった。」とありますが、このときの「ぼく」はなぜこのように思ったのですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 子どもの体力をまったく考えないおじさんが疲れて、ようやく休憩を入れたから。

イ 素直に疲れたと言えない自分を気づかってくれるおじさんに深い優しさを感じたから。

ウ 大嫌いなおじさん以外にも、他の登山客もいるところで休憩するから。

エ ようやく休憩する場所として、たいへん見晴らしのよいところを選んでくれたから。

オ 体力も尽きそうな上に、気分も最悪になったところで、ようやく休憩できるから。

2 ——線②「おいおい、そんなに飲むと、ばてるぞ」とありますが、このときのおじさんの様子を説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 他人が担いでいる貴重な水を、遠慮なく飲むとする「ぼく」へ怒りが湧いている。

イ まったく山登りに慣れていない「ぼく」の様子をよく見て、気づかっている。

ウ 水を飲む「ぼく」の様子から体力のなさを見て取り、先行きを心配している。

エ 目的地までの道のりの長さも考えない「ぼく」の様子に、あきれ果てている。

オ 山登りの時の給水の仕方さえ知らない「ぼく」の様子を見て、からかっている。

3 ——線③「ここは、ぼくが今まで知らなかった世界だ。」とありますが、どういう世界ですか。その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 疲れ果てているはずの頭に心地よく飛びこんでくるさまざまな音に満ちた世界

イ 山登りの疲れをいやしてくれるような自然界の風や音、光がある世界

ウ 強い夏の日ざしを和らげる木々の存在をこころよく感じることできる世界

エ 体のあちこちの痛みの存在を忘れて踊り出したくなるような音の世界

オ 気持ちを盛り上げてくれる音楽よりも心を満たしてくれるものがあふれている世界



6 — 線⑥「黒いうず」とありますが、これが示すものとして**ふさわしくないもの**を次の中から**すべて**を選び、記号で書きなさい。

ア うちとけることができないでいるクラスメートとの間柄

イ 忘れることのできない数学のテストの点数

ウ 最初にザックの重さを教えてくれなかったおじさんの意地の悪さ

エ 気になって仕方がない、自分を見る他人の視線

オ 自分を傷つけた、心ないからかいの言葉

カ 体力を次々と奪いつづける、山登りの険しい道

7 — 線⑦「ほおがゆるんでくる」とありますが、これはどういうことですか。その説明として**ふさわしいもの**を次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 人生を真面目に考えようとしてもがいていた緊張が、すっかりとけてしまっている自分が不思議でたまらない。

イ 必死に山登りをしている自分に気づき、いつの間にかわだかまりすら頭から消えていたことがおかしくなっている。

ウ 体力の限りをつくしてしまつて考える力が少しも残つておらず、自分のことなのに気を引き締めることができない。

エ たった一日の山登り程度でこれほどまでに疲労するとは、我ながらあきれてしまい、笑うしかない気分である。

オ 思い出したくないクラスメートとの嫌な思い出が頭から消えてしまい、うれしくてたまらない。

8 — 線⑧「コマドリの名前の由来、知ってるか?」とありますが、この時のおじさんの考えはどのようなものでしたか。その説明として**ふさわしいもの**を次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア コマドリが飛び去つてしまつたので気をつかう必要もなく、おしゃべりして「ぼく」の疲れを紛らわせてやろうとしている。

イ 「ぼく」が山登りに慣れた様子を見計らつて、少しずつ山の知識を教えこんでいこうとしている。

ウ 自然を甘く見ている「ぼく」に対して、小鳥の名前ひとつにしても深い意味があることを分かつて謙虚さを学ばせようとしている。

エ 「ぼく」のコマドリへの興味を見逃さず、知識を与えて、豊かな自然への愛着を分かち合おうとしている。

オ 自然のことをまったく分かつていないことを「ぼく」に自覚させ、より一層興味を持たせようとしている。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

【A】 私たちは、なぜ遠くに暮らす(注1) バングラデシユの貧しい人びとを助けなければいけないのでしょうか？

なぜバングラデシユで家事使用人として働く女の子のことを、「遠い国の知らない人」ではなく「同じ地球に生きる仲間」として感じる必要があるのでしょうか？ 【ア】

この質問に明確な答えはなく、助けることが義務だとい切することもできません。でも、私たちにができるのかを検討する前に、私たちが世界の問題にかかわることの意味について考えてみたいと思います。

【B】 困っている人を助けることはよいことだと、だれもが小さい頃(こころ)におとなから聞かされてきたことだと思います。高齢者(こうれいしゃ)や妊娠(ごん)中の女性、体の不自由な人に座席を譲(ゆず)ったり、目のみえない人には手をさしのべたりすることを私たちは当然のこととして捉(とら)えています。自分がある程度満たされた状態であるならば、困っている人を助けるべきであるという考え方は、困った人を救うだけでなく、自身の(注2)自尊心を高めることにもつながります。

だれしも、目の前に行き倒(たお)れた子どもがいたら助けようと思うはずですが、たとえそれが見ず知らずのバングラデシユの(注3)ストリートチルドレンでも、家事使用人としてきびしい毎日を送る女の子でも。

① 問題は、それが遠くのバングラデシユという国で、家の中で働かされているので普段(ふだん)「みえない」ということです。世界には、家事使用人の女の子のように、人知れず苦しんでいる人がまだまだたくさんいます。その存在を知ること、そして彼女たちの日常や苦しみに想像力を働かせることによって、助けるべき対象が、距離の近い・遠いや民族、宗教のちがいによって区別されることはなくなります。大切なことは、知ることを通じて人びとの苦しみを理解しようとする「共感力」です。【イ】

【C】(注4) グローバル化が進み、モノや情報が自由に行き来する現代社会において、家事使用人の女の子と私たちの生活がまったく無関係だとい切ることはできません。たとえば、私たちが着ている安価なバングラデシユ製の服をつくっている人が、十分な賃金(けん)がもらえず、子どもを家事使用人として働かせざるを得ない状況(じょうきょう)に追い込まれているかもしれません。

日本企業(にほんきんぎょう)が直接バングラデシユの人びとを雇(やと)っているようなケースにおいては、このようなことはないかもしれませんが、(注5) 現地の下請け業者(しもかきしや)に生産を委託(いたたく)しているような場合には、生産現場がどうなっているのかをすべて把握(はあく)することはとても困難(こんなん)です。【ウ】

また、社会として子どもの家事使用人労働が許容されているため、私たちが使うものを生産しているバングラデシユの会社の社長が、子どもを雇って、家事使用人として働かせている可能性もあります。(注6) 世界の国ぐにと自分たちの生活がつながっているグローバル社会においては、遠くの国で起きている貧困に(注6) 道義的責任がないとはい切れないのです。

④ 世界中で、過激派組織によるテロは収まる(注7)兆しはみえず、その脅威はむしろ広がっています。自分の命をかけて多くの若者が過激派組織に引き寄せられ、残酷な行為に手を染めるのはなぜでしょうか。宗教的な理由だけでなく、貧困や人間関係など、その理由はさまざまですが、自分の置かれた境遇になんらかの疑問を感じていたことは確かです。

もし、家事使用人の女の子が将来に希望をもてないと思ってしまうたら、その中からテロのような暴力行為に荷担する人や、麻薬取引などの非合法な仕事に手を染める人も出てくるかもしれません。そのような極端な行動に出ないとしても、生活苦から(注8)経済難民となって、祖国を出ざるを得ない人は世界にたくさんいます。

一方で、もし家事使用人の女の子が教育を受けられるようになれば、将来的にその能力を開花させ、バングラデシュ社会、ひいては世界をよりよい方向に導いてくれるかもしれません。(注9)起業家となって、日本、バングラデシュ間の貿易を活発にしてくれる可能性もあります。ムハマド・ユヌス博士のようにノーベル平和賞を受賞するような人も出てくるかもしれません。

⑤ もし、途上国といわれる国の人びとが日本に暮らす私たちと同じような生活を送ったら、食べものも電気も資源も、地球にあるだけでは足りなくなってしまう。逆をいえば、私たちの大量生産・大量消費社会は、地球に相当な負荷をかけることになって成り立っているのです。

私たちは途上国の貧困をなくしたいと思っていながら、もし、みんなが豊かになってしまったら、いまと同じような生活を送れないという(注10)ジレンマを抱えています。【E】

また、貧困は、バングラデシュだけでなく日本の社会にもみられる問題です。貧しい国の問題を考えることで、自分たちの国が直面する社会問題の解決策を探る手がかりが得られることもあります。2017年にバングラデシュのユヌス博士の協力で、貧しい人にお金を貸し出すことによって生活を改善するマイクロ・クレジットというしくみが日本でも導入されることになりました。

これからの国際協力は、途上国に先進国が教えるという一方通行の関係ではなく、互いに学び合う双方向の関係が求められています。国際協力は同じような考えをもっている世界中の人びととつながることで、すべての人びとが豊かに共生できる地球社会を考えるきっかけになります。

(目下)尚徳『わたし8歳、職業、家事使用人。——世界の児童労働者1億5200万人の1人』合同出版 による)

注1 バングラデシュ Ⅱ 南アジアの国。低賃金で労働する人が多い

注2 自尊心 Ⅱ 自分を大切にし、品位を保とうとする気持ち

注3 ストリートチルドレン Ⅱ 都市の路上で生活している子ども

注4 グローバル化 Ⅱ 国家や地域の境界があいまいになること

注5 現地の下請け業者に生産を委託している Ⅱ その国の会社に生産を任せている

注6 道義的責任 Ⅱ 人としての正しい道を守るべき責任

注7 兆し Ⅱ 何かが起こりそうな様子

注8 経済難民 Ⅱ 金銭的な理由で生活が困難になり、住んでいた土地や国から逃れた人々

注9 起業家 Ⅱ 自分で会社などを新しく始める人

注10 ジレンマ Ⅱ 二つの相反する事柄の板ばさみになること

1 — 線① 「問題」とありますが、この「問題」を解決するために必要なこととしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 世界へ出向き、困っている人がいることを実際に目で見て知っていく行動力

イ 困っている人がいることをまず知り、それを世界へ伝える発信力

ウ 目に見えないことを想像することで分かった現実と向き合う強い覚悟

エ ささまざまな国や民族、宗教にはちがいがあるということを感じる理解力

オ 困っている人の存在を知り、自分とのちがいを乗り越えようとする姿勢

2 — 線② 「世界の国ぐにと自分たちの生活がつながっているグローバル社会においては、遠くの国で起きている貧困に道義的責任がないとはいいい切れないです。」とありますが、これはなぜですか。その説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 国を越えてモノや情報が自由に行き来する現在、まずは海外の方の心情を理解していくべきだと考えるのは当然の流れだから。

イ 私たちが着ている安価な服がバン格拉デシユ産のものであり、その労働者が自分の子どもを働かせていることも考えられるから。

ウ 日本企業が海外の会社に生産を依頼する場合、その現場の労働環境をすべて把握している訳ではないから。

エ 私たちが使用するものを作っている会社の社長が、子どもを家事使用人として雇っている可能性があるから。

オ グローバル化が進んでいる現在だからこそ、気づかないうちに自分のまわりのものが海外とつながっていることが十分あり得るから。





4 線③「互いに学び合う双方向の関係」を説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 先進国が途上国の問題を理解することで、途上国では先進国の問題が理解されていくということ

イ 途上国がものを大量に生産すれば、先進国ではそれが大量に消費されることになるということ

ウ 先進国と途上国の垣根をなくし、対等な立場になることで豊かな地球社会が作っていけるということ

エ 先進国が途上国へつながりを求めることが、途上国からつながりを求められることにつながるということ

オ 途上国の問題を解決することが、先進国自体が抱える問題を解決することにもつながるということ

5 この文章には次の一文がぬけています。この文があてはまる場所を、文章中の【ア】～【エ】の中から一つ選び、記号で書きなさい。

家事使用人の女の子が幸せな人生を送れ、なおかつ私たちも一緒に豊かになれる社会をつくるためにはどうすればよいのか、国際協力は自分たちの生活を見直すきっかけにもなりません。

6 この文章にタイトルをつけるとしたら、どのようなタイトルになると考えられますか。ふさわしいものを次から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 世界の貧困に苦しむ人を助ける方法

イ 私たちが世界の問題にかかわることの意味

ウ 先進国の満たされた生活と自尊心

エ グローバル化の良い面と悪い面

オ 子どもの持つ無限の可能性

7 この文章の特徴としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 問いかけを用い、読者に興味関心を抱かせる工夫をしている。

イ 遠い国で起こっている出来事なので、分かりやすい例を示して読者の理解を助けている。

ウ 擬音語・擬態語を多く使い、いきいきとした文章になるようにしている。

エ 仮に起こるかもしれない出来事を示し、問題点を明らかにしている。

オ 最初に問いを立てて、世界の具体的な出来事を説明していくことで問いの答えを導く構成になっている。

(問題はこれで終わりです)



